

令和 7 年 2 月 20 日

教育長職務代理者答弁実録

（教育委員会）

（問）家庭教育の充実について

社会環境が変化し、共働き世帯が増加している中で、家庭と保育施設で行われる教育の役割についてどのように考えているのか、教育長に伺う。

また、子どもと接する時間が少なくなりがちな共働き世帯も含め、家庭内での教育について行政としてできる支援とはどのようなものか、併せて教育長に伺う。

（答）

家庭教育は、全ての教育の出発点であり、基本的な生活習慣や豊かな情操、人に対する信頼感、自制心や自立心などを身に付ける上で大変重要な役割を担っております。

また、保育施設における乳幼児期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うという役割を担っており、核家族化の進展や共働き世帯の増加など社会環境が大きく変化する中であって、それぞれの役割がより一層、重要性を増しているものと考えております。

特に、乳幼児期は、子供が自発的・主体的に人や物と関わりながら、遊びを通して必要な能力や態度などを獲得していく非常に重要な時期であることから、県教育委員会におきましては、乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方を、「遊びは学び」として発信し、その普及や支援に取り組んでいるところでございます。

さらに、子育ての悩みに寄り添い、アドバイスをする家庭教育支援ボランティアの育成や、各市町が家庭や子供の状況などに合わせて、必要な支援を行うための組織的な体制が構築されるよう、各市町の担当者会議や研修等を実施するとともに、保護者や教育・保育に関わる方を対象に、オンラインで家庭教育の重要性を伝えるためのフォーラムを開催しております。

また、共働き世帯の増加に伴う、子育て環境の変化などを踏まえまして、SNSなどを活用した効果的な情報発信に加え、一人でも多くの保護者が自信と安心感を持って子育てできるよう、ショッピングモールなどの生活に身近な場所や、ひろしまネウボラと連携した、3歳児健診の会場での啓発イベントなどを展開しているところでございます。

県教育委員会といたしましては、このような取組を着実に実施することに

より、引き続き、社会環境や子育て世代の意識の変化に対応しながら、一人一人の保護者の多様な生活実態やニーズなどを踏まえ、より一層、家庭教育支援の充実に努めてまいります。